

知事コメント

令和4年1月4日(火)

年始(としはじめ)ではありますが、一昨日に引き続き、新型コロナについて県民の皆様にお伝えしなければならない状況です。

本日確認された新規陽性者数は225名。県内で急速な感染拡大がみられております。1月1日に人口10万人あたり直近1週間の新規陽性者数が県全体で15人を超え県内全域に注意報を発出したところですが、昨日(1/3)時点25人を超え、この指標に関しては県警戒レベルの目安としては3Aの水準にまで至っております。

拡大の要因としましては、急速なオミクロン株への置き換わりがあります。基地関係者を中心に確認されていたオミクロン株ですが、現在市中でも感染が確認されており、国立感染症研究所の調査によれば、12月30日時点の直近5日間でオミクロン株が疑われる症例の占める割合は15%から97%に上昇しています。オミクロン株はこれまでの株と比較して感染性が高く、感染者数が2倍になる期間はデルタ株の7日間に対し、およそ2.8日と非常に短くなっています。

特に本島北部と中部において拡大が著しく、現在北部保健所管内の町村と中部保健所管内の町村、名護市、沖縄市、うるま市や宮古島市にも注意報を出しており、県及び市町村からも警戒を呼びかけているところです。

また、在沖米軍基地の感染拡大も昨年より続いており、昨年陽性者が急増したキャンプ・ハンセンだけでなく、直近では北部ではシュワブ、中部ではキャンプ・フォスター、普天間基地、嘉手納基地、キャンプ・レスター、キャンプ・コートニー、南部ではキャンプ・キンザーからも陽性者が確認されております。本日の在沖米軍の新規陽性者数は164名。未だ流行に歯止めがかかっておりません。

現状の県内の感染状況について、20代～40代の感染者が多く、飲食による感染事例も増加していることを鑑みると、(専門家会議の意見を伺う必要がありますが、)県としましては、もはや第6波に突入したものと認識しております。

すでにオミクロン株の流行が起こっている欧米諸国をみると、デルタ株以上の速度と規模で感染が拡大しており、オミクロン株の感染力の強さは多くの専門家から指摘されているところです。県内においても病院の病床を確保するスピードを上回る速度で拡大し、また、ワクチン2回接種の医療従事者においても感染する等、従来とは違った形で医療提供体制に影響を与え始めています。

また、今後県内の流行が拡大し、高齢者へと感染が広がれば、重症化するリスクも考えられ、更なる医療のひっ迫をきたす恐れもあります。

これらの状況を踏まえ、本日対策本部会議において県の警戒レベルを2へ引き上げることを決定致しました。

対処方針についても新たに、施設に対して「集客イベント実施の際に、密集・密接しないように取り組むこと」や飲食について「4人以下、3密を避けて、2時間以内とすること」、「できるだけ同居家族やいつも一緒にいる方と行うこと」、店舗側にも「原則同一グループ・同一テーブル4人以下とすること」を要請することとしています。

また、警戒レベルの引き上げに伴い、現在実施している観光需要喚起策について、実施要件の強化を行うこととします。

具体的には、「おきなわ彩発見キャンペーン第4弾」及び「おきなわ観光体験支援事業」については、1月7日(金)から新規予約・販売を停止することとし、また、「おきなわ彩発見バスツアー促進事業」については、文部科学省等が定める衛生管理マニュアル等に基づき実施する学校活動等を除き、1月5日(水)から、ワクチン接種済、またはPCR等検査の陰性結果の提示を事業の利用条件とします。

県としまして、県民一丸となって感染対策に取り組んでまいりたいと考えておりますが、感染拡大に歯止めがかからなければ、まん延防止等重点措置の要請を含めた更なる警戒レベルの引き上げや人の移動や経済活動の制限などの強い措置も想定しなければなりません。

しかしながら、沖縄県は、第5波の流行を県民の皆様と一緒に乗り越えてきた経験があります。感染防止対策を徹底することができれば、拡大のスピードを抑え、流行を抑えこむことが可能です。県民の皆様、体調管理や基本的な感染防止対策を引き続き実践してください。不安がある方は是非無料検査をご利用下さい。何卒宜しくお願い致します。